

エミレーツ・グループが 2023-2024 通期業績を発表



エミレーツ・グループは、前年度比 71%増の 187 億ディルハム（51 億米ドル）というエミレーツ史上最高利益を達成し、売上高と現金資産高でも過去最高となる通期業績を発表しました。

- グループ売上高は事業全体の堅調な顧客需要の後押しにより、15%増の 1,373 億ディルハム（374 億米ドル）となりエミレーツ史上、過去最高を記録。
- 年度末におけるキャッシュバランスは 471 億ディルハム（128 億米ドル）と過去最高水準。
- グループを保有するドバイ投資公社（ICD）に対し、40 億ディルハム（11 億米ドル）の配当金を発表。
- 会長は、ドバイの進歩的政策が記録的な好業績に大いに貢献し、高利益により新しい航空機、施設・機材、技術、商品・サービスおよび人材へのさらなる投資を可能にすると述べた。

エミレーツ航空は、本年度の利益を 172 億ディルハム（47 億米ドル）と発表。前年度の 106 億ディルハム（29 億米ドル）から 63%増加しました。

- 売上高は 13%増の 1,212 億ディルハム（330 億米ドル）。輸送能力を增強し、世界の輸送網と提携関係を継続的に強化したことが要因。
- 輸送能力は 20%増の 577 億有効輸送トンキロ（ATKM）となり、パンデミック前の水準近くまで回復。

dnata は、本年度利益を 14 億ディルハム（4 億米ドル）と発表。前年度の 3 億 3100 万ディルハム（9,000 万米ドル）から大幅に改善しました。

- 売上高は 29%増の 192 億ディルハム（52 億米ドル）とエミレーツ史上最高を更新。UAE を筆頭に全世界の事業部門でお客様の航空機利用や旅行の需要が増大したことが増収に貢献。

- 新規契約により顧客ポートフォリオを拡大し、新たな国際市場でさらにラウンジを新設、新規機材・技術への投資で事業活動やサービスを強化。

2024年5月13日（ドバイ現地時間）、エミレーツ・グループは、[2023-2024の通期業績（英語）](#)を公表し、利益、売上高、キャッシュバランスがエミレーツ史上最高水準を達成したことを報告しました。

世界中で事業を拡大することで質の高い商品とサービスに対するお客様の高い需要を満たすことができ、その結果、エミレーツ航空および dnata のいずれにおいても、2023-2024の通期業績で利益と売上高が大幅に増加しました。

エミレーツ・グループは2024年3月31日までの当期において、前年度の109億ディルハム（30億米ドル）から71%増の187億ディルハム（51億米ドル）という記録的利益を計上しました。売上高も前年比15%増となる、1,373億ディルハム（374億米ドル）に達しました。キャッシュバランスは471億ディルハム（128億米ドル）と前年度から11%増加し、過去最高水準に達しました。

グループの過去2年の利益を合計すると296億ディルハムに達し、2020-2022年のパンデミックによる損失259億ディルハムを超えました。

エミレーツ航空およびエミレーツ・グループ会長兼最高責任者である シェイク・アハメッド・ビン・サイド・アル・マクトゥーム殿下は次のように述べています。「エミレーツ・グループは過去の記録を塗り替え、今年度もエミレーツ史上最高業績を達成しました。年度を通じて、世界中の航空輸送と旅行関連サービスに対する需要は高水準を維持しており、お客様の要望に迅速に対応できたことが目覚ましい好業績につながりました。商品とサービス、強固な提携関係の構築、優秀な人材の能力開発に長年にわたって投資し続けた成果が実を結んでいます。」

「このような成果をあげられたことは、UAEの先見的な指導者たち、特に、UAE副大統領兼首相およびドバイ首長であるシェイク・ムハンマド・ビン・ラシード・アル・マクトゥーム殿下によるご支援の賜物でもあります。エミレーツ・グループが成功を収めているのは、こうした指導者層と進歩的な国家政策のおかげです。エミレーツ航空とdnataはドバイ特有の強みを活かした事業モデルの構築に成功しました。その結果、ドバイそして両社がサービスを提供する世界中のコミュニティに多大な価値を生み出しています。」

シェイク・アハメッド殿下はまた、次のように述べました。「グループは現在極めて健全な財務状態であることから、将来成長し成功を収めるうえで有利な位置付けにあります。それ

によって、さらに良い商品やサービスを提供するための投資が可能になることで、お客様や利害関係者により多くの価値を提供できます。』

既に、以下に挙げるような多数の重要なプロジェクトが進行中です：
数十億ドル規模の航空機を保有し、キャビンをリニューアルする計画。
ケータリング、貨物、グランドハンドリング（空港の地上支援業務）分野の新機能。
先端技術でグループ事業を支える取り組み。
職員訓練と人材育成プログラムの拡充。
グループのサステナビリティへの課題を進展させる取り組み。

当期、グループは成長計画を後押しするために、新しい航空機、施設、機材、企業、最新技術に総額 88 億ディルハム（24 億米ドル）を投資しました。

グループの**合計従業員数**は 10%増加し、112,406 人と過去最高を記録しました。この増加は、エミレーツ航空と dnata が事業拡大と将来的な輸送能力強化に必要な人材を確保するために、世界中で採用活動を継続したことが背景にあります。

環境、従業員、お客様、コミュニティに焦点を当てた多数の取り組みを実行し、グループは**サステナビリティ**に向けた活動で当期に大きな進歩を遂げました。

UAE はドバイで開催された気候変動対策に関する世界最大級の会議「COP28」の主催国を務めたことから、環境問題は年度を通じて重要課題となりました。

エミレーツ航空は当期に、持続可能な航空燃料（SAF）を推進する新規供給契約に署名しました。ドバイのハブ空港を皮切りに、アムステルダムとシンガポールでも契約を締結しました。A380 のエンジン 1 基で 100%SAF を使用する初のデモフライトを運航し、SAF のみを使用するフライトの実現に向けた業界の取り組みに役立つデータを収集しました。

二酸化炭素排出量を大幅に削減できる有効策は現代の航空会社にとっては限定的であるという観点から、エミレーツ航空は、商用航空における化石燃料の影響軽減に焦点を当てた研究開発プロジェクトを支援するために 2 億米ドルの基金を立ち上げました。また、UAE を拠点とする再生可能な先端航空燃料の共同研究組織「Air-CRAFT」の創設メンバーとなり、航空業界を含む多様な業種で使う低炭素燃料の生産を主目的とする英国のイニシアチブ、The Solent Cluster にも参加しました。

dnata では、世界で保有する航空機地上支援機材（GSE）の全車両を電動およびハイブリッド式に切り替えるための投資を継続し、米国での業務に新しい手荷物トラクター、貨物ロー

ダー、トーイングカーを追加しました。また、イタリアではディーゼル稼働の GSE を水素化植物油と電力で走行するように改良しました。dnata ロジスティクス、アラビアン・アドベンチャーズ、アルファ・フライト・サービシーズ、シティ・サイトシーイング・ワールドワイドなど、dnata の UAE 事業では地上での車両用燃料をバイオ燃料に移行しました。

当期において dnata は、UAE での事業全体における持続可能性の取り組みが評価され、国際航空運送協会（IATA）による環境マネジメント認証（IEnvA）を受けた初の総合航空サービスプロバイダーとなりました。一方、エミレーツ航空は、環境スチュワードシップと野生生物の密売防止活動が評価され、IEnvA ステージ 1 および IEnvA 違法な野生生物取引のモジュール認証を取得しました。

グループは人材育成への投資を拡大し、一流大学や主要な業界パートナーと協力して、社内人材に学習・訓練の機会を提供する包括的プログラムを展開しました。また、グループ内でジェンダー平等を擁護・促進するためにジェンダーバランス協議会が創設されました。

エミレーツ・グループは最新の 2023-2024 通期業績で ESG に関する報告内容を拡充し、GRI スタンドの複数の観点を導入しています。今後数年のうちに、ISSB および CSRD の各要件を満たすように報告内容を発展させる計画です¹。

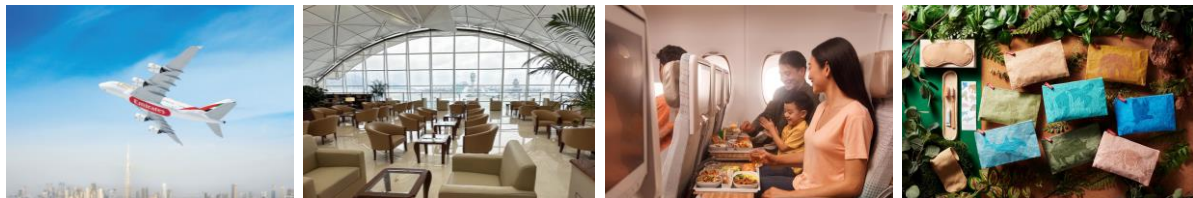
シェイク・アハメッド殿下は次のよう述べています。「当グループは成長を持続する強固な基盤のもとに新年度を迎えます。エミレーツ航空では新年度に新しい A350 型機 10 機の引き渡しを受け、保有航空機を増やして今後のネットワーク拡大に弾みをつけます。dnata では事業部門全体の相乗効果と規模を継続して活用し、事業展開と稼働能力を拡大させます。両社は連携して、環境への影響を最小限に抑え、人材を育成し、お客様とコミュニティを大切にするために資源への投資を続けます。」

「事業の見通しは良好で、航空輸送と旅行に対するお客様の需要は、今後数か月間、高水準を維持すると予測しています。コストに加え、原油価格や為替変動、社会政治的な変化による不安定な環境といった外部要因については、今まで同様、今後も注視していきます。当社の事業モデルは過去に試されてきましたが、回復力および機会や課題への迅速な対応能力には自信を持っています。」

¹グローバル・レポートング・イニシアチブ（GRI）、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）、企業サステナビリティ報告指令（CSRD）は、環境、社会、ガバナンス（ESG）データとイニシアチブに関する企業報告の国際的に認められた基準です。

さらに次のように述べました：「中期的見通しについては、ドバイ政府はアル・マクトゥーム国際空港の次期拡大工事に着手する計画を発表しており、完成後にはエミレーツ航空と dnata の事業の新たな拠点となる予定です。ドバイの航空・物流インフラを大幅に拡大・強化するこの計画には総額 1,280 億ディルハム（350 億米ドル）が投じられ、ドバイの成長だけでなく、エミレーツ航空と dnata の成長も支えることとなります。」

エミレーツ航空の業績



エミレーツ航空の**旅客・貨物合計輸送能力**は本年度に前年比 20% 増の 577 億 ATKM に達し、ほぼパンデミック前の水準まで回復しました。

お客様に乗り継ぎのさらなる選択肢を提供するため、東京国際（羽田）空港への運航を再開し、乗り入れ空港を 29 に増やしました。また、新たにカナダのモントリオールへの 1 日 1 便の運行を開始しました。また、新たな提携航空会社 11 社とコードシェアおよびインターライン契約を締結し、ネットワークをさらに拡大しました。2024 年 3 月 31 日時点でエミレーツ航空のネットワークは 6 大陸にわたる 151 の地域におよび、そのうちの 10 都市では自社の保有貨物機のみが運航しています。

エミレーツ航空は今年、主力機の A380 型機と人気のプレミアム・エコノミーをさらに多くの都市で導入しました。総額 20 億米ドルの客室改装プログラムで新たに 16 機が最新のシグネチャー製品で全面改装されました。2024 年 3 月 31 日時点で A380 型機の運行路線は 49 都市に達しており、お客様がエミレーツのプレミアム・エコノミーをお楽しみいただける運行路線は世界 15 都市となっています。

2024 年 3 月末時点において合計保有航空機は 260 機、平均機齢は 10.1 年でした。

納品待ちの航空機数は、2023 年ドバイ航空ショーで注文されたボーイング 777 型機、787 型機、エアバス A350 型機の合計 110 機（総額 580 億米ドル相当）を含めて 310 機となっています。今後、旧式機種からワイドボディの新世代の航空機に切り替えて機種拡大を促進することは、エミレーツ航空が長年力を入れている効率に優れた最新型機の運行方針に沿った動きであり、最新の機内装備による快適な体験をお客様に提供することができます。

輸送能力の増大と市場全体の堅調な需要を反映して、エミレーツ航空の本年度**総売上高**は 13%増の 1,212 億ディルハム (330 億米ドル) に達しました。為替変動と一部主要市場での通貨切り下げ (特に、パキスタンルピー、エジプトポンド、インドルピー) は利益幅を 20 億ディルハム (6 億米ドル) 押し下げる要因となりました。

当期の**営業キャッシュフロー**は 376 億ディルハム (103 億米ドル) と潤沢で、好調な営業成績を下支えし、今後の事業拡大を可能にします。

合計**営業費用**は前年度から 8%増加しました。当期、特にコスト負担が大きかったのが、資産所有コスト (減価償却費) および燃料費で、人件費がこれらに続きました。営業費用に占める燃料費の割合は 34%でした (前年度は 36%)。燃料費は前年度の 337 億ディルハム (92 億米ドル) から 342 億ディルハム (93 億米ドル) へと若干増加しました。運行回数の増加により 24%上昇しましたが、ヘッジ利益を勘案した燃料平均取得単価の低下 (18% 減) によって部分的に相殺されました。

顧客セグメント全体での旅行意欲の向上、グローバルネットワークの強化、魅力的な設備・サービスが追い風となり、エミレーツ航空は前年度の 106 億ディルハム (29 億米ドル) を上回る 172 億ディルハム (47 億米ドル) という**記録的利益**を計上しました。**粗利益率**も 14.2%と創業以来最高水準に達しました。

当期における輸送乗客数は 5,190 万人 (19%増) に達し、**総座席数**は 21%増加しました。**座席利用率**は 79.9%と、前年度の 79.5%から上昇しました。有償旅客トンキロ (RPKM) に基づく**旅客単価**は、客室と路線構成、料金、通貨の変更・変動が原因で、36.6 フィル (10.0 米国セント) と、2%低下しました。

エミレーツ航空は、お客様にこれまで以上に快適な空の旅を提供するための投資を継続しました。本年度中は、エミレーツ専用ラウンジの改装に 3,000 万ディルハムを投じ、ブリスベン、デュッセルドルフ、フランクフルト、ハンブルク、香港、ヨハネスブルグ、マンチェスター、ミュンヘンで、プレミアム顧客と頻繁に利用する旅行者向けの施設を改装し、再オープンしました。また、定評のある「運転手付き無料送迎サービス」をネットワーク全体の 82 都市で復活させ、インドネシア、モロッコ、トルコのプレミアム顧客向けに新たに本サービスを導入しました。

メニューやアメニティーからコンテンツまで、多数の機内エンターテインメントも導入しました。特筆すべきなのが、ビジネスクラスで始まった無料のラウンジウェアの配布と食事の事前注文です。

エミレーツ・スカイカーゴは当期に全世界で 220 万トンの物品を運び、航空輸送・貿易分野での確固たる地位を再確認しました。輸送量が前年比 18%増となった理由として、旅客サービスの増加に伴い貨物輸送能力も拡大したことや、年度中に 747 型貨物専用機を 3 機リースして、人気路線での需要に即座に対応できるようになったことが挙げられます。この好業績は、物流関連の専門的ソリューションに対するお客様の需要の高さ、エミレーツ航空のグローバルネットワークが及ぶ範囲と接続性、ドバイの世界的な海運・空輸拠点としての能力、そして、エミレーツ・スカイカーゴのデジタル技術やインフラ、製品への継続的投資の成果を表しています。

世界物流業界は難局から脱却していませんが、貨物部門の**売上高**は 136 億ディルハム (37 億米ドル) と堅調で、エミレーツ航空の総売上高の 11%を占めました。貨物輸送トンキロ (FTKM) あたりの**イールド**は 32%低下し、パンデミック前の市場水準に戻りました。

本年度中にエミレーツ・スカイカーゴは、生命科学と医療分野特有の要件を満たすことに特化した 2 つの貨物ソリューション「Emirates Vital」と「Emirates Medical Devices」を発表しました。また、クウェートでは英国、米国、UAE の e コマースブランドと買物客をつなげるサービス「Emirates Delivers」を開始しました。このサービスは B2C (企業と消費者間) 向けの配達ソリューションが行き届いていない市場に重点を置き、今後数年で規模を大幅に拡大する予定です。

年度末時点でエミレーツ・スカイカーゴが保有していた貨物専用機はボーイング 777F 型機合計 11 機でした。貨物部門では 2024 年度半ば以降、注文済みのボーイング 777F 型機 5 機の納品を見込んでいます。

エミレーツ・グループ会社・子会社であるエミレーツ・フライト・ケータリングおよび MMI/エミレーツ・レジャー・リテール (ELR) は本年度に好業績を記録しました。

エミレーツ・フライト・ケータリングの外部顧客による売上高は、ドバイ空港の利用客数増加を反映して、9 億 7,000 万ディルハム (2 億 6,400 万米ドル) と過去最高を記録しました。航空会社への機内食提供数は前年比 19%増の 7,690 万食に達しました。また、航空会社とホスピタリティ産業を主要顧客層とするランドリー設備「Linencraft (リネンクラフト)」など、他の付随事業でも需要が増大しました。

MMI/ELR (エミレーツ・レジャー・リテール)の売上高は 18%増の 29 億ディルハム (7 億 9,600 万米ドル) となりました。観光客急増に伴う卸売りおよび小売り需要の伸びに 대응するために UAE での事業を拡大したことが増収に貢献しました。ELR は UAE、米国、オーストラリアといった主要市場からの強力な貢献により、全世界で記録的な売上増を達成しました。

エミレーツのホテル事業の売上高は、オーストラリアのウォルガン・バレーリゾートの臨時休館が響き、前年比2%減の6億6,000万ディルハム（1億8,000万米ドル）となりました。

前年度に続く業績好調を受け、エミレーツ航空は航空機関連の定期債務のすべての支払い義務を継続して履行し、コロナ禍で生じた175億ディルハム（48億米ドル）の借り入れについて本年度は22億ディルハム（5億9,600万米ドル）を追加返済しました。その結果、債務残高の総額が大幅に減少し、将来の成長と航空機の新規取得計画の財源となる財務基盤の強化につながっています。

本年度の不安定な燃料市場によってもたらされる課題に対処するため、エミレーツ航空ではブレント原油やジェット燃料といった幅広い商品にわたってシンプルな先物取引やオプション取引を活用することで、年度中のコストを削減するとともに、重要な将来のヘッジ量を確保しました。さらに、ネットエクスポージャーを効果的に管理することで、高い金利制度の影響を大幅に軽減しました。外国為替レートの変動リスクについては、通貨オプション、先渡し契約、ナチュラルヘッジを活用し、バランスの取れた方策で対処する方針を維持しました。この体系的なアプローチを採用することで、不安定な市場相場に対する資金繰りの予測可能性を改善し、財務の安定が強化されました。

エミレーツ航空が本年度決算で計上した**現金資産**残高は429億ディルハム（117億米ドル）とエミレーツ史上最高水準に達しました（2023年3月31日時点からの増加率は15%）。

dnata の業績



dnata は当期、全事業部門を通じて堅実な業績を残し、**利益額**は330%増の14億ディルハム（3億8,700万米ドル）に達しました。

dnata の**総売上高**は、飛行機による旅行機会の世界的な増加傾向を受け、29%増の192億ディルハム（52億米ドル）と過去最高記録を更新しました。dnata の国際事業が売上高に占める割合は前年を3%上回る、75%となりました。年度を通じて幅広い部門で新規顧客契約を獲得し、顧客と密接に連携して、主要市場であるオーストラリア、欧州、UAE、英国、米国を中心に、増大した運行・旅行需要への対応を図りました。

dnata が将来の成長基盤を築くために当期に投資した額は、4 億 6,400 万ディルハム（1 億 2,600 万米ドル）に達しました。本年度中に投資額が多かった部門として、環境戦略の一環として空港業務に使用される電動・ハイブリッド型の航空機地上支援機材の新規取得、フィリピン、イタリア、UAE のマルハバ・ラウンジの拡張が挙げられます。

当期における dnata の**営業費用**は 22%増加し、178 億ディルハム（48 億米ドル）となりました。空港オペレーション、ケータリングと小売り、旅行の各部門で事業が拡大したことや、労働および食料供給を中心に全市場でインフレによる圧力が継続したことがコスト増の要因となりました。

dnata の**キャッシュバランス**は 9 億 5,800 万ディルハム減少して、42 億ディルハム（11 億米ドル）となりました。主な減少要因として、会社を保有する ICD への 20 億ディルハム（5 億 4,500 万米ドル）の配当金支払い、投資や債務返済の資金調達が挙げられます。事業は当期、売上高の大幅な改善を反映して、営業キャッシュフローは 19 億ディルハム（5 億 700 万米ドル）の黒字となりました。

グランドハンドリングと貨物取り扱いを含む **dnata の空港オペレーション事業**の売上高は 88 億ディルハム（24 億米ドル）に増加しました。

dnata が全世界で取り扱う航空機の対応回数は 9%増の 778,026、貨物取扱量は 5%増の 290 万トンを記録しました。新規契約の獲得や顧客である航空会社が各市場で運航活動を増加させたことが要因と考えられます。

年度中、dnata は顧客ニーズに応えるためにインフラと最新技術への投資を継続しました。UAE での業務に自律飛行型ドローンを投入し、シンガポールで AI 搭載ソリューションを実装し、高度な貨物管理システム「One Cargo」の導入を世界で継続しました。その他、dnata が過半数を所有する子会社の「エアポート・ハンドリング」が 7 年間のグランドハンドリングのライセンスを獲得したローマ・フィウミチーノ空港での事業拡張も発表しました。この新しい事業を推進するため、dnata は新しい高度な地上設備に 2,000 万ユーロを投資する予定です。

dnata のケータリング・小売事業の売上高は 35%増の 65 億ディルハム（18 億米ドル）となりました。機内ケータリング事業では旅客への機内食提供数が 1 億 2,300 万食となりました。世界中の航空会社が運航業務を再開・拡張したことを受け、前年比で 10%増加しました。

同部門は主要市場で顧客基盤を広げ、当期において次のような重要顧客から受注を獲得しています：オーストラリア（シドニー空港およびメルボルン空港）ではスリランカ航空とトルコ航空、チェコ共和国（プラハ空港）ではチャイナ エアライン、アイルランド（ダブリン空港）ではジェットブルー航空、イタリア（ローマ・フィウミチーノ空港）ではビーマン・バングラデシュ航空、英国（ロンドン・スタンステッド空港）ではロイヤルヨルダン航空、米国（ボストン空港）ではエティハド航空。また、空港の小売ネットワークを拡張し、ルーマニアのアンリ・コアンダ国際空港と UAE のシャールジャ空港の新しい飲食店が加わりました。

dnata の旅行サービス部門では売上高として 48%増の 35 億ディルハム（9 億 5,100 万米ドル）を計上しました。アジアで観光地域づくり事業を展開するデスティネーション・アジアと、dnata が株式の過半数を取得したクルーズ旅行事業のイマジン・クルージングが増収に大きく貢献しました。同事業部門の総取引額（TTV）は、27%増の 89 億ディルハム（24 億米ドル）に達しました。この結果からは、同部門が世界の B2B（企業間）および B2C（企業・消費者間）の各旅行セグメントでの高い需要に対して関連する商品を提供する手腕がうかがえます。

当期、dnata の旅行サービス部門は新しい旅行会社、ホスピタリティブランド、その他のパートナーと契約を交わし、旅行商品、サービス、ソリューションの品揃えを拡充しました。その代表例が AMEX GBT との戦略的提携で、中東における法人の旅行業務の規模を倍増させました。

エミレーツ・グループ（エミレーツ航空、dnata、および各社の子会社で構成）の 2023-2024 通期業績は[こちら](#)に掲載されています。

米ドル数値は 1 米ドル=3.67 ディルハムで換算され、ディルハム数値は百万桁で四捨五入されています。

エミレーツについて

エミレーツ航空は 2002 年に日本就航。成田国際空港・東京国際（羽田）空港・関西国際空港から、ドバイをはじめとする世界 140 以上の地域へ快適な空の旅を提供しています。2022 年の ULTRAs アワードでは「ベスト・エアライン・イン・ザ・ワールド」「ベスト・エアライン・イン・ザ・ミドル・イースト」、2023 年の APEX アワードでは、「ワールド・クラス・アワード」「グローバル・オフィシャル・エアライン・レーティング・5 つ星」「パッセンジャー・チョイス・アワード・ベスト・グローバル・エンターテインメント賞」など、我々の提供する商品やサービスにおいて数々の賞を受賞しています。